

事業の背景・目的

地域循環共生圏を構築し、次代を担う子供たちが自然に親しみ、森林や環境問題に対する確かな理解を深める取組をすすめるための活動を実施してきた。この活動の発展性、持続性、自立性のためには、地域、民間で主体的に活動を推進する基盤づくりや活動を発信していくための広域的なバックアップ体制、事業の企画立案と活動資金づくりなどコーディネートする拠点が必要である。その活動拠点として令和6年度に「（仮称）能勢町地域自然資源開発センター」を設置することをめざし、令和4年度から令和5年度の2年間、準備期間として事業を展開する。

事業の内容

ア グリーンツーリズム振興事業
街（吹田市・豊中市）と里（能勢町）
の子ども達が一堂に会し、交流する
「里山デイキャンプ」を開催。



イ 能勢町版レッドリスト（仮称）作成事業
能勢町版レッドリスト作成し、豊かな生物多様性を次の世代に残し引き継ぎ、これらの取組をもとに、街（吹田市、豊中市）と里（能勢町）の連携による里山資源の維持や活用を通じて、生物多様性保全上重要な種への理解を深め、様々な事業展開を図る。

得られた成果

里山デイキャンプを開催し吹田市、豊中市、能勢町の児童合計75名が参加した。次世代の担い手となる子どもに能勢の生物多様性資源の重要性を伝えることができ、人と自然のふれあいの場の提供等を通して次世代人材の育成を図ることができた。都市住民と里の交流が進むことで、自然環境に対する理解が深まり、生物多様性を守るための行動が増えていくことが期待できると考えている。

本事業にて作成した能勢町版レッドリストをベースとした、豊かな生物多様性を次の世代に残し引き継ぎ、街と里の連携による里山資源の維持や活用を通じた、生物多様性保全上重要な種への理解を深められるリーフレット等を活用して、今後の他自治体や民間企業等と実施する事業への活用を図る。

交付金事業終了後についても令和6年度に設立予定である「（仮称）能勢町地域自然資源開発センター」が「里山デイキャンプ」や「能勢町版レッドリスト（仮称）」をもちいた里山資源の維持や利活用の推進、能勢町の魅力を発信等事業に取り組むことで、地域、民間で主体的に活動を推進する基盤づくりや活動を発信していくための広域的なバックアップ体制、事業の企画立案と活動資金づくりなどコーディネートする拠点としていく予定。